



なばり

2019年(平成31年) 1月10日号

主な内容

- 1~2……伝統の組みひもづくり
- 3……市立病院だよりきらり
- 4……税の申告
- 5……配偶者控除
- 7……施設ご利用ガイド
- 8……ともに生きるコンサート

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

新春特別企画



国の伝統工芸品の指定を受けている

～伝統の組みひもづくり～



絹糸を数本から数十本合わせて斜めに交差させて作る組みひもで、色鮮やかな色彩と職人の技術により美しい絵柄が組み上がります。昔と変わらぬ作業工程はすべて手作業で行われ、ひとつひとつに違いがあります。

伊賀組みひもの技術力と繊細な色使いの評価は高く、昭和51年には国の伝統的工芸品として指定を受けています。

組みひもの歴史は古く、日本には、奈良時代に中国や朝鮮などから伝えられたとされています。お経のひもから袈裟、貴族の礼服、武士の鎧や刀の柄巻きなど、時代とともにさまざまなものに使われるようになりました。江戸時代には、着物の帯締めや羽織ひもなど用途は広がり、庶民にも普及していきました。

伊賀地方へ組みひもづくりが伝わったのは明治35年。伊賀出身の廣澤徳三郎が、東京から技術を習得して帰り、広めたのが「伊賀組みひも」のはじまりとされています。名張に組みひも工房が最も多く存在していたのは昭和初期で、10軒ほどの工房がありました。

伊賀地域は全国でも有数の組みひもづくりが盛んな地域となりましたが、時代の変化と共に着物を着る機会が減り、組みひもの需要は減少しました。その結果、現在も名張に残る組みひも工房は3軒となってしまいました。伊賀名張が誇る伝統や技術を守り次の時代へ伝えていく必要があります。

2ページへ続く

今年の一言 市長と市議会議員が、今年の抱負などを漢字一文字で表しました



名張市長 亀井 利克

名張市は平成15年より、互いに助け合い共に生きる「地域共生社会」の実現に向け、市民の皆さんと連携してその取り組みを進めてきております。

政府にあっても平成28年より、『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部を立ち上げられ、その取り組みを始められております。

その地域共生社会の実現にもっとも大切な事は、人と人の結びつきです。そこで、今年の一言を「結」といたしました。



名張市議会議員 川合 滋

名張市議会では、これまでの改革の取り組みとして、「適正な議員定数の再検討」など様々な検討を行ってまいりました。引き続き、「議員報酬や政務活動費のあり方」などについて検討を行ってまいります。従いまして、今年の一言を「改」とし、「議会改革にゴールなし」を合言葉に、更なる議会改革に取り組み、市民の皆様のご期待に応える議会を目指してまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。